

(別紙様式)  
**令和 4 年度 学校自己評価システムシート ( 県立羽生実業高等学校 )**

(A3判横)  
**E37**

目指す学校像 **確かな専門性と高い人間性を育む学校**

重点目標	1 基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着及びコミュニケーション力を育む授業の実践と生徒の主体的進路決定力を育成する進路指導を行う 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る生徒指導を行う 3 地域と連携・協働する開かれた学校づくりを推進し、産業人としての意識を醸成する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	9名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<b>【現状】</b> 学力に差のある生徒の実態を踏まえた、学習意欲・学力の向上が必要となっている。資格取得や体験的な活動をとおして、希望進路の実現を図っている。  <b>【課題】</b> ICT機器を活用した、視覚的に理解しやすく、学習効果の高い授業を実践していく必要がある。第一希望での進路決定率向上に向け、コミュニケーション力、思考力、判断力、表現力を育む必要がある。	ICTを活用した授業改善と自発的な学習態度の育成  一人一人の生徒に寄り添った希望進路の実現	①授業規律を徹底するとともに、ICTを活用した授業の工夫により、授業力の向上を図る。 ②未来の職業人材育成事業を活用し、外部講師を活用した実践的な教育を充実させる。  ③資格取得を推奨し、学習の動機付けを行い、高度な資格にチャレンジする向上心を育む。	①授業アンケートによる授業満足度が向上したか。  ②授業に意欲的・積極的に取り組む生徒の割合が向上したか。  ③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)や各種資格取得者が増加したか。	①生徒の授業満足度は85%、教職員の授業評価は77%で、前年より向上(3%、6%)した。  ②外部講師による実践的な授業(アクリルデザイン、そば打ち、洋菓子、パン製造、養蜂)を行った。農産物をふるさと納税品として出品した。  ③埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)者数は、3年生5名、2年生10名が取得した。商業系1級3種目合格者は1名であった。	A	ICT機器を活用した授業は、学習効果が高く定着してきている。一人一台タブレット端末導入に向けて、各教科・HR活用で活用に関する研修会やソフトの導入を進め、ICT教育を推進していく。 学習の動機付けや指導体制を構築し、上位級にチャレンジする生徒を増やし、進路実現に繋げていく。 実践的な授業をとおして生徒の学習意欲を育み、大学等への進学を積極的にチャレンジさせていく必要がある。 生徒一人一人の進路実現に向けて、教育課程を見直し、進路別コースや選択科目の設置を進めていく。
2	<b>【現状】</b> 基本的生活習慣は改善傾向にあるが、個別の支援が必要な生徒がいる。特別活動では、部活動・農業クラブ等で、全国・県大会で活躍している。  <b>【課題】</b> 生徒指導部・教育相談委員会を中心にSC・SSWと連携し、一人一人に対応した組織的な生徒指導・生徒支援を行う。学校行事や部活動等の特別活動においては、主体性やコミュニケーション能力を育成する。	生徒指導・生徒支援の組織的な支援体制の構築  特別活動における生徒の主体性の促進	①定期的な整容指導を行うとともに、女子用スラックスを導入する。 ②登校指導や放課後の定期的な市内巡回、交通安全指導を行う。 ③SC.SSW.教育相談担当による週1日の相談日を設定する。	①生徒・保護者の本校生活指導の満足度が向上したか。  ②生徒事故ゼロ、生徒指導件数が減少したか。  ③長期欠席者、転・退学者が減少したか。	①生活指導の満足度は、生徒83%・保護者85%であった。令和5年度より女子用スラックスを導入する。  ②生徒事故・交通事故は0件であった。生徒指導件数は昨年度と同数で、減少傾向にある。  ③長期欠席者数は変化がなかった。転・退学者は4名増加した。	B	生徒指導件数は減少傾向にあるが、転・退学者や長期欠席者にほぼ変化がなかった。生徒指導部・教育相談委員会を中心に、学年・SC・SSWと連携し、支援の必要な生徒に対し、心身の健康や不登校等、生徒に寄り添った支援を行っていく。 文化祭や特別活動では、生徒の主体性を養う支援を行うことができた。しかし、部活動の加入者等は減少傾向にある。 部活動の精選や部活動指導員活用事業・合同チーム等を活用し、魅力ある生徒活動を推進する。
3	<b>【現状】</b> 商業と農業を併設する伝統校として、地域に根ざした教育活動を展開している。生徒募集では、地域の中学生の減少に伴い生徒募集に苦戦している。  <b>【課題】</b> 行産学連携事業において、学校全体の取り組みとして実施し、情報発信していく必要がある。生徒募集においては、ソーシャルメディア等を積極的に活用し、中学生に専門学科の魅力伝える。	地域関係機関との行産学連携事業の推進  情報発信の工夫と生徒募集定員の確保	①未来の職業人材育成事業を活用し、地域との協同事業やイベントに参加する。  ②行産学と連携した商品開発・市民講座を実施する。	①地域関係機関との行産学連携事業を実施することができたか。  ②商品開発・市民講座を実施することができたか。	①産学官連携で養蜂を開始し、『純国産、非加熱、生はちみつ』の製造・販売許可を取得した。農商連携でオリジナルを作成し、秩父鉄道SL羽生うまいもん号、世界キャクターサミット等で販売した。 ②地元スーパーと連携し、羽生在来赤大豆を使用した豆腐を販売した。羽生市主催のフワアアレンジメント公開講座に3名がインストラクターとして参加した。	A	商業系・農業系の連携や産学官連携事業により、生徒の活躍の場を増やすし、情報発信することができた。次年度は商・農並置校の強みを生かし、インターネット販売や異校種間連携を進めていく。 公式SNSの活用や体験入学等の実施形態を工夫して実施したが、中学生減少の中、募集定員数を満たすことができなかった。 特色ある教育活動の魅力を実践する。
			①商業・農業系が同日で受講できる体験入学と専門の魅力を受講できる体験入学を実施する。  ②公式ソーシャルメディアを活用して学校の魅力を発信する。	①入学志願者数が増加したか。  ②体験入学の参加者や学校説明会等への参加者数が増えたか。	①入学希望者は、商業系30名(38%)、農業系51名(58%)であった。昨年比2名(2%)減少した。  ②体験入学2回、学校説明会2回実施した。参加者は、昨年度より9名(4%)増加した。	B	農商連携や産学官連携事業は地域・企業との連携が深まり、貴重な生徒の活躍の場となっている。 次年度の専門高校の強みを生かした先進的な取組は、大いに期待している。 羽生にしかないものを題材とした商品開発を進め、地域に愛される本物を残して欲しい。 公式SNSによる情報発信は、先進的で効果があるが、大勢が集まる地域イベントを活用し、学校紹介をすることも必要ではないか。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	